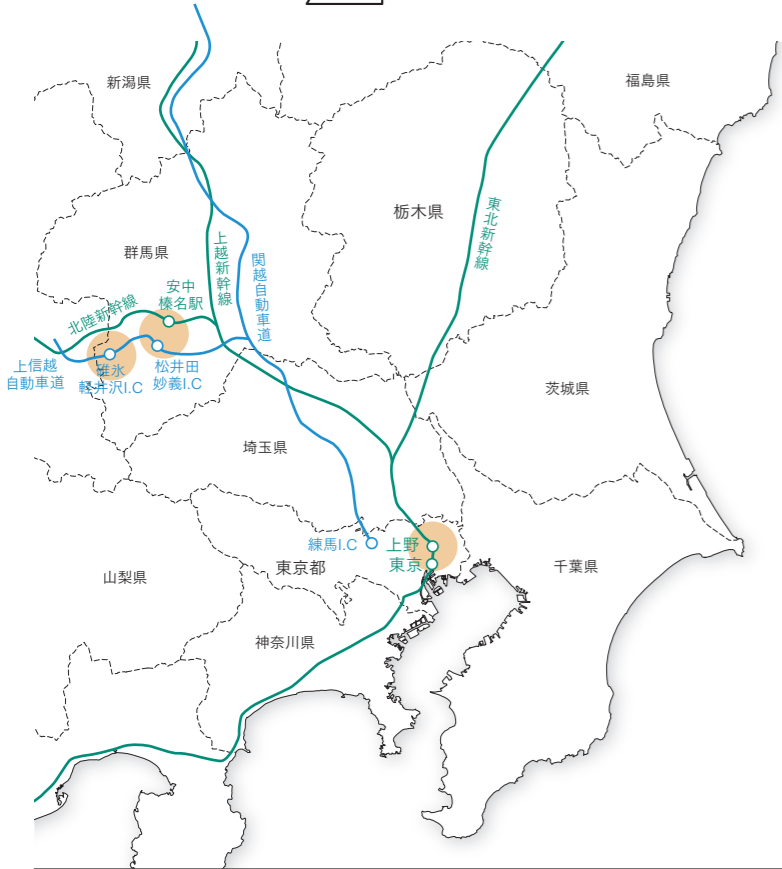


次なるステップへのゲートウェイ



アクセス・交通拠点

- 北陸新幹線「安中榛名駅」
東京から最短約60分。
駅前の無料駐車場が、通勤・通学・二拠点生活を大きく支えます。
- 上信越自動車道
「松井田妙義IC」「碓氷軽井沢IC」の2拠点で、車移動もスムーズ。

東京駅から安中榛名駅まで

- 東京駅 安中榛名駅 最速 約60分
- 練馬I.Cから松井田妙義I.Cまで約116km
練馬I.C 松井田妙義I.C 最速 約90分
- 練馬I.Cから碓氷軽井沢I.Cまで約131km
練馬I.C 碓氷軽井沢I.C 最速 約110分

各種相談窓口

- 移住・定住・制度全般
安中市 地域振興・移住定住担当課 TEL.027-382-1111
- 創業・経営支援
安中市商工会 TEL.027-382-2828
安中市松井田商工会 TEL.027-393-1411
- 空き家・住まい
建築住宅課 TEL.027-382-1111
- 子育て・妊娠
こども課/健康づくり課 TEL.027-382-1111

- 関連ポータルサイト
あんなか日和(安中市移住・定住応援ナビ)



あんしんのまんなか!

安中市移住
GUIDE BOOK



安中で
生きる、
働く、
挑戦する。



群馬県安中市で、ゆったり、ゆったり、のんびり。
そして、あなたの「挑戦」を。
暮らしも、仕事も、人生の選択も。
このまちには、そっと隣で伴走する人たちがいます。
あなたの第一歩を、ここから始めてみませんか。

発行 安中市松井田商工会

〒379-0221 群馬県安中市松井田町新堀13 TEL.027-393-1411

matsuida-sci.or.jp

松井田 商工会



2026年3月発行

令和7年度企画提案型地域活性化事業
安中市松井田商工会



安中での「生き方」を描く、4つのステップ

— 移住・就業・創業を 考えはじめたあなたへ —



はじめの一步は、“全体像”を知ることから



移住を考えたとき、こんな疑問が浮かびませんか？
「住まいはどう探す?」「仕事はある?」「子育て環境は?」「家計はどのくらい変わる?」「誰に相談すればいい?」
このガイドブックは、それらの疑問に順番に答える構成になっています。このページを“案内マップ”として、あなたの関心に合わせて読み進めてください。

STEP 1

安中を知る

(P4~P5)

まずは「どんなまちなのか」を体感してください

Time 東京から新幹線で最短約60分の好アクセス

Balance 山と街がちょうどよく混ざり合う、理想の“田舎まち”

Safety 災害リスクが比較的低く、安心して暮らせる確かなデータ

自然・歴史・地価データなど、数字とリアルな視点の両方から安中の輪郭を紹介します。

STEP 2

暮らしとライフプランをイメージする

(P6~P19)

「実際どうなの?」という本音と「お金・時間」のリアルに向き合う

Voices 先輩移住者たちが語る「安中暮らし」のリアル(P7~P11)

Life Plan 都会と安中、家計や時間はどう変わる? 統計データで比較(P12~P13)

Education 自然の中でのびのび育てる、安中の子育て・教育環境(P14~P15)

Housing 住まい探し(空き家・リフォーム)と相談体制(P16~P19)

移住は「生活の再設計」です。住宅費を抑え、生まれた「時間のゆとり」をどう使うか。メリットも不便さも踏まえて、新しい日常をシミュレーションします。

STEP 3

仕事・創業を考える

(P20~P27)

安中は「働き方を選べるまち」です

Work 地元企業への就職、地域を支える仕事のストーリー

Challenge ゼロからの創業、あるいは「事業承継」という選択肢

Support 商工会による、起業・経営の伴走支援体制

今の仕事を続ける(新幹線通勤)のも、新しく始めるのも、あなたのキャリアに合わせた選択肢があります。

STEP 4

支援制度を確認する

(P28~P31)

「知らなかった」で損をしないために、先に把握しましょう

Grant 最大200万円(世帯)の移住支援金、マイホーム取得支援

Baby 妊娠・出産から学童まで、切れ目のない子育て手当

Consult 移住・定住コーディネーターへの相談窓口一覧

使える制度は賢く活用。自治体・商工会・金融機関が連携してあなたを支えます。

あなたはどのタイプ? 気になる項目にチェックを入れて、該当ページへジャンプ!

- まずは全体の雰囲気を知りたい P4
- 先輩移住者の本音を聞きたい P7
- 家計や時間の変化(マネープラン)を知りたい P12
- 子育て環境を詳しくチェックしたい P14
- 住まい(空き家等)を探したい P16
- 仕事や起業の可能性を探りたい P20
- 具体的な支援制度を相談したい P28

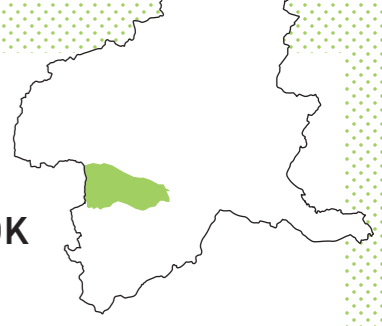


安中市で暮らす
安中市は
どんなところ？



暮らしやすさと歴史が重なる 「ちょうどいい地方都市」!

あんしんのまんなか!
安中市移住
GUIDE BOOK



魅 群馬県安中市の概要

安中市は、群馬県の西部に位置する人口約5万3千人、面積276.31平方キロメートルのまちです。北と東は高崎市、南は富岡市・下仁田町、西は長野県軽井沢町に接しており、関東平野と信州を結ぶ結節点として、古くから交通と交流の要所として発展してきました。

市域の約7割を山林や農地、河川などの自然環境が占める一方、住宅地や商業エリアもバランスよく形成されており、「田舎すぎず、都市すぎない」暮らしやすさが特徴です。

市内からは妙義山をはじめとした雄大な山並みを望むことができ、日常の中に自然の景色が溶け込んでいます。

交 首都圏からのアクセスの良さ

安中市の大きな魅力の一つが、首都圏とのアクセスの良さです。

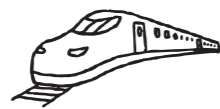
市内には北陸新幹線の「安中榛名駅」があり、東京駅から最短路60分・乗り換えなしで到着します。通勤・通学はもちろん、週末の往復や二拠点生活にも無理のない距離感です。また、安中榛名駅は比較的用户者が少なく、座って移動しやすい駅として利用者から評価されています。

在来線では信越本線が市内を通り、安中駅・磯部駅・松井田駅・横川駅など複数の駅が生活圏にあります。

自動車利用の場合も、松井田妙義IC・碓氷軽井沢ICの2つの高速道路インターチェンジがあり、関越自動車道・上信越自動車道を利用して首都圏や長野方面へスムーズに移動できます。

「自然に囲まれた環境で暮らしながら、都市部との距離は保てる」この立地条件は、安中市ならではの強みと言えます。

- 車の場合(練馬I.Cから松井田妙義I.Cまで約120km)
 - 練馬I.C 松井田妙義I.C
 - 関越自動車道・上信越自動車道
 - 最速 約90分
- 電車の場合(東京駅から安中榛名駅まで)
 - 東京駅 安中榛名駅
 - 北陸新幹線
 - 最速 約60分



観 自然・気候・観光資源

安中市は、四季の移ろいをはっきりと感じられる自然環境に恵まれています。妙義山、碓氷峠、碓氷湖など、山・川・湖が近く、ハイキングやサイクリング、アウトドアを身近に楽しむことができます。

また、安中市は災害が比較的少ない地域としても知られています。大規模水害や地震の発生頻度が低く、住宅地だけでなく産業立地の面でも安定した環境を備えています。

気候面では、夏は暑く、冬は冷え込みますが、積雪は少なく、降っても短時間で解けることがほとんどです。

全国的にも日照時間が長く、晴れの日が多いことも特徴です。

観光資源としては、

- 磯部温泉(温泉マーク発祥の地)
- 霧積温泉(小説「人間の証明」の舞台)
- 秋間梅林
- 碓氷峠・アプトの道
- 碓氷峠鉄道文化むら

など、自然・歴史・文化が融合したスポットが点在しています。

観光地でありながら、日常の暮らしと無理なく共存している点も、安中市らしさの一つです。



歴 歴史と文化が息づく地域特性

安中市は、古くから中山道の宿場町として栄え、碓氷峠を越える交通の要衝でした。

江戸時代には関所が置かれ、明治以降は鉄道技術の発展とともに、日本の近代化を支える重要な役割を担ってきました。

特に碓氷峠は、日本初の本格的な山岳鉄道が敷設された場所として知られ、現在もレンガ造りの橋梁やトンネルが数多く残されています。これらは単なる遺構ではなく、地域の誇りとして保存・活用されています。

また、安政遠足(あんせいとおあし)は、日本マラソンの起源とされる歴史行事で、現在も市民参加型のイベントとして受け継がれています。

伝統を守りながらも、地域全体で楽しむ文化が根付いている点は、安中市の大きな魅力です。

交 「田舎まち」というちょうどいい選択

安中市は、決して都会の便利さをすべて備えているわけではありません。車移動が基本であったり、流行の店がすぐ近くにないこともあります。

一方で、

- 人との距離が近く、あたたかい地域性
- 自然と共にある穏やかな暮らし
- 首都圏に無理なくアクセスできる立地
- 歴史と文化に支えられた地域の誇り

これらがバランスよく共存しています。

「便利すぎないからこそ、暮らしを自分で選べる」安中市は、そんな価値観を大切にしている人にとって、長く住み続けられるまちです。



THE CHARM OF ANNAKA





安中で生きる、働く、挑戦する。

NEXT STORY

Interview

安中は、あなたの「やりたい」を
独りにしない。

市・コーディネーター・商工会が連携するサポート体制

安中市への移住、そして新しい仕事への挑戦。それは期待に満ちた一歩であると同時に、未知の土地での孤独な戦いになるかもしれません。安中市が目指すのは、単なる窓口の紹介ではありません。行政、移住コーディネーター、商工会が密に連携し、あなたの挑戦を「最初の一歩」から「軌道に乗るまで」隣で支え続ける伴走支援です。

〈あなたを支える3つの「伴走」サイクル〉

01

安中市(行政)

暮らしの土台を整える 移住定住支援金や空き家バンクの活用、子育て支援制度など、生活の基盤となる制度をスピーディーに提供。「あんな暮らし」の安心を公的な立場からバックアップします。

02

移住・定住コーディネーター

想いと地域を繋ぐハブ。移住検討者の「一番身近な相談相手」です。暮らしのリアルなアドバイスはもちろん、地域コミュニティへの橋渡しや、キーマンの紹介など、心理的なハードルを丁寧に取り除きます。

03

商工会

ビジネスを「形」にする団体です。創業や事業展開のフェーズでは、専門的な知見を提供します。事業計画の策定、補助金申請の伴走、低利な融資の斡旋に加え、専門家を現場へ派遣し、実務を直接支援します。



あんしんのまんなか!
安中市移住
GUIDE BOOK



安中市地域おこし協力隊
移住・定住コーディネーター

平間 麻衣子さん

(東京都より2024年に移住)



「つなぐ人」として 見える地方移住の 現在とこれから

INTERVIEW-01

で当たり前でできていたことが難しくなること、あとは車が運転できなくなった時の生活に不安を抱えている方がたくさんいらっしゃるの、そこも課題だと思います。

——松井田地域が持つ強み、他地域と違う魅力はどんな点にありますか?
「理想の田舎暮らしができる場所」で、自然や文化遺産、観光名所もたくさんあります。安中市は安中地域(まち)と松井田地域(自然)と分類される事が多いです。安中地域はチェーン店が多いイメージですが、松井田地域の商店街は店に特徴や名物があります。それも魅力の一つかもしれません。

——移住者が地域に馴染むために大切だと感じることは何ですか?
まず自分から行動すること。地域のイベントに参加したり、声をかけたり、挨拶をすることですね。相手から来るのを待つより、自分からどんどん興味のあるものに参加すると繋がりが増えていくと思います。同じ思いを持つ人と出会えるかもしれないので、自分発信で行動することが大事です。

——移住後に感じた「良かったこと」と、逆に「想定外だったこと」を教えてください。
季節によって匂いが変わるのを感じられること、「夜を夜と感じる」ことでしょうか。ちゃんと暗くなり静けさがあるというのは豊かな生活だと感じていて、これは良かった点です。想定外だったことは家の中に虫がいること。これにはびっくりしました。空っ風のすざさはテレビなどで見て知っていましたが、都会のビル風とあまり変わらないと感じたので、私にとっては苦ではありませんでした。大きな想定外というのはいですね。

——移住支援において、商工会や地域企業と連携する意義はどこにあると思いますか?
現状では明確な連携制度はありませんが、最近イベントなどを通じて少しずつ関わりが出てきて

います。今後企業側から「この時期だけの仕事がある」「人材が必要」といったお話があれば、移住者に紹介ができます。そういった連携ができれば、より良い移住案内ができると思います。

——今後、移住・創業・就業を一体で支援する体制をどう発展させたいですか?
空き家対策、移住促進、就職先の斡旋など、生活していくために必要なこと全てを一緒に案内できる体制があれば、すごく良いです。行政や商工会といった「縦の繋がり」はありますが、「横の連携」はまだ薄いと感じています。そこがうまくチームになれば、余分な手間も省けて良い形になるのではないのでしょうか。これらに関わってくるのは意欲のある人たちだと思うので、率先して移住を促進してくれる人たちがチームになってほしいです。

——東京など都市部の若い世代に向けて、安中をどのように伝えたいですか?
「やりたいことがあるなら、チャレンジできる場所だよ」と伝えたいです。都会で何かをするよりもハードルが低いですし、ライバルも少ないと思います。「経験値は無駄にならない」ということを、安中で何かしてくれる若い人たちに伝えて、応援していきたいです。

——移住を支える仕事を続ける中で、最も心に残るエピソードがあれば教えてください。
北海道からの移住希望で、距離的なこともあり全てオンラインで対応させていただきました。後から聞いた話なのですが、現地を見ずに決めてしまったので来た当日は「帰りたい」と思ったそうです。でも近所の人たちがとても親切だったため「本当に来てよかった、感謝しかない」と言っていたようになります。安中市は移住者を受け入れる地域だと実感しましたし、安中に限らず群馬の人たちは優しい人が多いので、胸を張って「群馬の人はいい人ですよ」と言える確信を持たれた出来事でした。

——東京から安中への移住を決めた理由と、当初の印象を教えてください。
群馬県内で降雪のない地域であること、趣味が家庭菜園、キャンプ、登山、温泉なので、都内より近くに趣味を楽しめる場所があることや、東京の実家にすぐに帰れるアクセスの良さが決め手となりました。来た時は、「色々な場所があるのにもったいないな」という印象を受けました。

——移住・定住コーディネーターとしてどのような活動をされていますか?
主に、移住相談、移住イベントへの参加、不動産屋さんと連携した住宅の紹介、移住者コミュニティのイベントを企画・開催しています。最近移住者インタビューを始めました。

——実際に移住希望者の方と接して感じる、地方移住のリアルな課題はどのように感じていますか?
知り合いがなかなかできないことです。「ふらっと行けば誰かがいる場所」というのがあまりなく、移住者と関わる中でも話題になります。都内ではできていた「今日飲みに行く」ということも、計画を立てて帰りの車の手配などをしないと行けません。今ま



地域おこし 協力隊からの起業と 地方暮らしリアル。

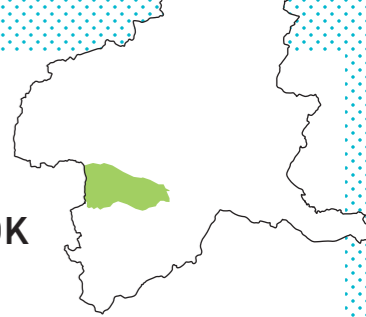
INTERVIEW-02



モデルカプラー合同会社(鉄道模型の開発・販売)

能代 紘平さん

(静岡県より2021年に移住)



— 地域おこし協力隊として

松井田にきたきっかけを教えてください。

2021年5月頃にSNSで偶然、安中市地域おこし協力隊の募集を見つけました。自分で開発した鉄道模型を販売する店を持ちたいと考えていたので、協力隊の活動を通じて夢に近づけるのではないかと考えました。それまでは静岡県で自動車の内装部品を設計する仕事をしており、大阪への出向を打診されたのですが、「自分のやりたい鉄道模型の製作・販売に挑戦してみよう」と起業を決意したタイミングでした。実家は高崎市で妻の実家が長野県なので、ここはちょうど中間にあたります。結婚式も車で15分ほどの軽井沢で挙げました。不思議な縁で繋がっていたのだと思います。

— 協力隊として活動するなかで、どのような

気づきや地域課題に出会いましたか?

配属された「碓氷峠鉄道文化むら」のある横川地区は、信越本線の一部廃止後に人の動線が新幹線に移ってしまい、過疎化が進んでいる現状を目の当たりにしました。鉄道文化むらという素晴らしい施設を、十分に活用しきれていないと感じました。そこで、埋もれてしまった鉄道車両の魅力を再発掘し、発信していく活動に取り組みました。鉄道が走っていた頃の歴史や機関車の特徴を解説する企画展を開催するなど、「もう一度来たい」と思ってもらえるような仕掛けを行ってきました。

— 起業を決意したタイミングとその背景を

教えてください。

前職での出向の話とコロナ禍が重なり、人生を見つめ直したのがきっかけです。自動車の内装設計をしていたため3D CADが得意で、データを作成して3Dプリンターで試作することができました。試作してみたところ納得のいくものができたので、「これなら製品としてやっつけていける」と自信を持ち、起業を決意しました。



— 事業のアイデアはどのように生まれ、

形になってきましたか?

基本的には「自分が欲しいもの」を起点としています。ラフスケッチを描き、どう商品化するか検討し、データに起こして3Dプリンターで試作、改良するという流れです。また、世の中の流行も意識しています。現在はカプセルトイの市場規模が大きくなっているのでも、ここに入るような製品を作れないかと考え、現在は5種類の製品を安中市観光機構に卸しています。

— 子育てと起業の両立で大変だったことや、

工夫していることはありますか?

小学3年生の娘と2歳の息子がいます。日中はこの工房で作業に集中し、夕方5時以降は子どもとの時間に充てています。子どもが寝た後に、パソコンでできる作業を行うというサイクルで工夫しています。小学校まで距離がありますが、スクールバスが家の前まで来てくれるので安心です。集落のおじいちゃんおばあちゃんも温かく見守ってくれています。

— 地域の人との関わりの中で、

印象に残っている出来事はありますか?

碓氷温泉組合長さんとの出会いです。非常にパワフルな方で、一緒に「SL謎解きラリー」を企画しました。横川の地域資源を見ながら謎解きを考える過程で、私自身にとっては日常に溶け込みすぎて気づかなかった魅力が、外からの視点ではとても魅力的に映るのだと再発見できました。イベントがリリースされた後、多くの方から「これを作った人だよ」と声をかけていただき、とても良い経験になりました。

— 商工会や市、金融機関など、

どのような支援が役立ちましたか?

協力隊を卒業する前、市の創業相談会に参加しました。そこで群馬県信用組合や日本政策金融公庫の方に話を聞いていただき、具体的なアドバイスをもらったことが非常に役立ちました。商工会にも加入しましたが、親切に案内してもらるので、入って良かったです。

— 移住や起業を考える同世代へ伝えたい

「地方で働くことのリアル」を教えてください。

地方は人口が少なく一般的な商売をするのは

難しい側面がありますが、地域の特色を活かしたオリジナル商品を作ることができれば、それを目当てに来てくれる人がいます。安中市観光機構に卸した商品をSNSで見、関西など遠方から買いに来てくれたこともありました。旅行の予定に組み込んでもらえるのは、作り手として本当にやりがいを感じます。また、インターネットを活用すれば、場所を問わず手軽に商品を届けられます。実店舗以上に販路を広げられるので、組み合わせることが強みになると思います。

— 家族で松井田に暮らして感じる

地域の温かさや、暮らしやすさはありますか?

協力隊時代に住んでいた空き家をそのまま購入し、定住しました。近所の方が野菜をくれたり、外で遊んでいる子どもに声をかけてくれたり、都会にはない温かさを感じます。人混みの窮屈さがなくなり、精神的なストレスが減りました。病院の待ち時間が短いのも助かります。かかりつけ医の先生方も親切に診てくださるので、子育て世帯にはありがたい環境です。

— 今後の展望や、地域で実現したいことは

ありますか?

横川周辺で店舗を持ちたいと考えています。「鉄道カフェ」のような場所を作り鉄道模型を販売するだけでなく、ハイキング客などが電車の待ち時間に立ち寄れる場所です。コーヒーを飲みながら、碓氷峠の歴史や鉄道の魅力に触れてもらえるような空間を提供したいですね。鉄道模型だけでなく、手軽に碓氷峠の鉄道を知れるようなグッズも作ってみたいです。マニアックな違いを忠実に再現することで、「ここまで区別しているのか」と喜んでもらえます。ニッチだけれど深い魅力に焦点を当て、本当に好きな人に刺さるものづくりを続けたいです。





木の花園(梅農家)
澤田 延之さん・妻園子さん
(東京都より2017年に移住)



「継ぐ」という選択と
新しい挑戦。

地域に根づき

INTERVIEW-03



——松井町へ移住したきっかけと、
当初の地域の印象を教えてください。

移住のきっかけは、2015年に義理の母が亡くなったことです。当時、義理の父も80歳近くになっており、一人で梅の管理や畑作業を行うのは困難だろうと考えました。私たちが移住したのは2017年の春です。それまでもぼんやりと移住について考えていましたが、母の死が大きな転換期となりました。地域の印象としては、「人がいない」と感じました。高齢の方が多く、移住当初はまだ小学校があったのですが、その後閉校になってしまいました。それからは学校のチャイムも聞こえなくなり、一気に静まり返ってしまったと感じます。

——事業を承継するにあたり、
どのような経緯や決意がありましたか？

義父が一代で築き上げてきた梅の基盤を、そのまま終わらせてしまうのはもったいないし、虚しいことだと感じました。また、私自身50歳を前にして「セカンドキャリア」を考えるタイミングでもありました。コロナ禍など社会情勢が変化する中で、東京でサラリーマンを続けることに不安を感じていた時期でもあり、タイミングが重なりました。妻の実家ですが、義母が亡くなったことで、家庭の味である「梅干し」が途絶えてしまうのが悲しいという思いもありました。私たち夫婦には子どもがおらず共働きだったので、身軽に動けたというのも大きかったです。

——継承当初に感じた課題や不安は
ありましたか？

義父と婿という関係が、仕事上では「上司と部下」「師匠と弟子」になるわけですから、お互い



にストレスはあったと思います。私は農業の知識がゼロの状態からのスタートだったので、全てを教わらなければなりません。ただ、同居して常にコミュニケーションが取れる環境だったため、比較的すんなりと受け入れられたと思います。課題としては、業務のマニュアルなどが一切なく、いわゆる「口伝」や「背中を見て覚える」という職人的な世界だったことです。言葉と現場の状況を照らし合わせながら、体一つで覚えていくしかありませんでした。

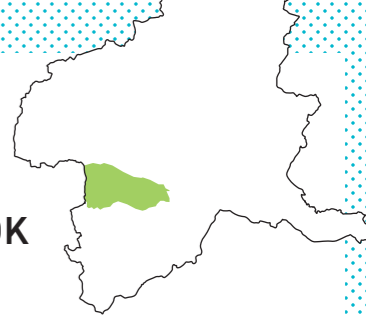
——先代(義父)から学んだこと、
また変えていったことはありますか？

義父から言われた「畑は足跡を残した分だけ応えてくれる」という言葉は大切にしています。毎日畑に足を運び確認することで、昨日との違いや昨年との変化を感じ取れるようになりました。この「毎日の積み重ね」というアナログな部分は、変えてはいけない大切なことだと思っています。一方で、生産面に関しては変えた部分もあります。近年の気候変動により毎年条件が異なり、「昨年と同じやり方」が通用しなくなっています。そこで、JAや県の農業事務所に相談し、土壌診断を行うなど第三者の意見やデータを取り入れるようにしました。客観的な数値に基づいた土づくりへと手法を更新しています。

——商工会の支援で役立ったことはありますか？
補助金の案内などの経営サポートも助かっていますが、一番大きかったのは「商談会(マッチングイベント)」です。一昨年に参加した際、伊香保温泉の旅館とご縁をいただき、お土産用だけでなく、朝食に当園の梅干しを採用していただくことになりました。定期的な納品につながり、大きな飛躍となりました。

——今後の展望や、新たに挑戦したいことは
ありますか？

企業とのコラボレーションや、海外展開も視野に入れています。梅単体での広がりには限界があるため、例えば以前行った川場産米「雪ほたか」とのセット販売のように、何かと組み合わせる形を模索しています。また、海外ではヴィーガンや宗教的な観点からも梅製品の需要があると考えています。新商品として、梅干しを作る際に出る梅酢を煮詰めた「おにぎりソルト」という調味料を開発しました。



これはアップサイクル商品でもあります。こうした商品を個人の消費者だけでなく、飲食店などの企業向けにも広めていきたいですね。

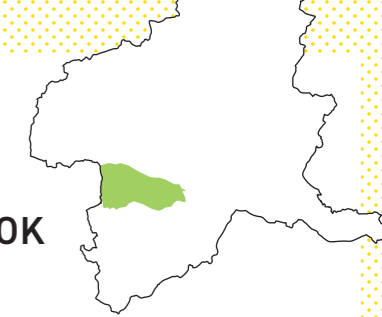
——松井町での暮らしや働く魅力を、
移住検討者へ伝えるなら？

一番の魅力は「交通アクセスの良さ」です。田舎でありながら高速道路のインターも近く、新幹線の安中榛名駅も利用できます。車なら都心まで2時間、新幹線なら1時間。通勤も可能な距離感です。また、軽井沢まで車で20分という立地もビジネスチャンスになります。富裕層やインバウンド観光客が多く訪れるエリアに近いことは、販路拡大において非常に有利です。生活費も都心に比べて抑えられますし、眼鏡橋や関所跡などの史跡や豊かな自然環境もあります。「アクセスの良さ」と「豊かな環境」が共存している点は、移住者にとっても大きな魅力だと思います。

——最後に、事業を継ぐことのやりがいを
教えてください。

群馬県は全国2位の梅の産地です。その誇りを持ち、どこに出しても恥ずかしくないクオリティのものを作ることにプライドを持っています。手をかけた分だけ結果が出て、それが売上に直結するというシビアな点にやりがいを感じます。また、サラリーマン時代と違い、「自分の代わりはない」ということを痛感しています。自分が体調を崩せば全ての作業が止まってしまう。その責任の重さにはありますが、自分たちの裁量で未来を切り拓いていける面白さも感じています。耕作放棄地が増えている現状もありますが、法人化して雇用を生み出し、群馬の梅の将来性を広げていくことができると考えています。





移住で気になるお金の話

— 東京都(都心)と群馬県(安中市周辺)の比較 —

東京都から群馬県安中市周辺への移住を検討する際には、政府統計(e-Stat)に基づき、都会(東京都区部)と地方(群馬県・安中市周辺=小都市相当)のコスト、収入、そして生活時間の違いを比較し、移住後の家計変化を考察します。

01 群馬県安中市の概要

移住の最も明確な経済的メリットは、住宅費の大幅な削減です。総務省「住宅・土地統計調査」による「借家(専用住宅)の1畳当たり平均家賃(家賃0円を含まない)」を比較すると、次のようになります。

地域	1畳当たり平均家賃(円)
安中市	1,827
群馬県平均	2,492
東京都特別区部	6,380

安中市の家賃水準は、東京都区部の約3分の1以下であり、移住前後で家賃が半減する事例も多く見られます(例:月額9万円 → 4.5万円)。この差は、家計に大きなゆとりをもたらします。なお、安中市の借家(専用住宅)は3,630戸(木造2,220戸、非木造1,410戸)です。

02 賃金・所得：収入減少の現実

住宅費が下がる一方で、地方移住に伴う課題は収入の減少です。群馬県と東京都の主要産業における所定内給与額(厚生労働省「賃金構造基本統計調査」)は以下の通りです。

産業分類(男女計)	群馬県(千円)	東京都(千円)
製造業	294.1	394.3
卸売・小売業	305.4	377.1
医療・福祉	317.9	384.8

主要産業の平均給与額は、東京都と比較して月額8~10万円の差が見られます。たとえば、移住前の月収が32万円の場合、移住後は22~23万円となる可能性があり、生活設計の見直しが必要です。特に、将来の貯蓄計画や老後資金の確保に影響するため、ライフプランの再設計が求められます。

03 生活費全体：削減効果と増加する費用

[1]年間消費支出の比較
家計調査(二人以上の世帯)による年間支出を、都市規模別に比較すると以下の通りです。安中市は「小都市B・町村」相当の水準と推定されます。

項目	東京都区部	前橋市	小都市B・町村(安中相当)	全国平均
消費支出合計	4,211,608	3,622,581	3,055,210	3,344,917
食料費	1,268,220	1,051,222	972,250	1,079,228
住居費	269,992	144,463	126,033	170,275
交通・通信費	473,941	721,582	506,066	479,061
教育費(サービス)	251,711	—	12,133	138,038

支出構造の特徴

- 総支出差: 東京都区部は小都市B・町村より年間115万円多い
- 住居費: 東京都区部は安中市相当の約2倍
- 交通・通信費: 地方都市では自家用車維持費が加わるため高くなる傾向
- 教育費: 都心部の支出は突出しており、小都市の約20倍

[2]地方で増える支出

- 自動車関連費: ガソリン代・車検費用・保険料などで、月1万円前後の増加
- 光熱費: プロパンガス利用地域が多く、都市ガス圏より月5,000円前後高い
- 税・社会保険料: 自営業や国保加入により、年間30~40万円増える場合あり



04 通勤時間と生活のゆとり

通勤時間は、都市生活と地方生活の「見えないコスト」を示す指標です。総務省「社会生活基本調査」によると、通勤・通学時間の平均は以下の通りです。

地域	平日平均通勤時間(分)
東京都区部	45
群馬県	31
全国平均	40

群馬県は東京都より平均で14分短く、往復では1日約30分の時間的余裕が生まれます。この差は年間で約180時間に相当し、家庭時間や趣味に充てる余裕をもたらします。特に子育て世代では、家族との時間増加や夫婦の分担改善につながる可能性があります。

05 移住初期費用と資金計画

地方移住には初期投資が必要です。主な費用の目安は次の通りです。

費目	想定費用(目安)
引越し費用(県外)	約15~30万円
敷金・礼金・仲介料	約20~30万円
自動車購入費(中古)	約70~100万円
家具・家電購入費	約30~50万円
合計	約100~200万円

生活費が下がっても初期費用はかかるため、貯蓄や補助制度を踏まえた事前の資金計画が不可欠です。

06 まとめ：安中市移住の家計インパクト

項目	東京都区部	群馬県(安中市相当)	差異・特徴
住居費	高水準(約6,380円/畳)	低水準(約1,827円/畳)	-70%
所得水準	高い	約-25~30%	年-100万円
消費支出	4,211千円	3,055千円	-115万円
通勤時間	45分	31分	-14分
教育費	高額	低額	-95%
自動車維持費	少	多	+5~10万円/年

総合考察

安中市への移住は、「住宅費の大幅な軽減」と「時間的ゆとり」という二つの恩恵をもたらします。一方で、所得の減少や車維持費・社会保険料の増加といった新たな負担も生じます。しかし、住居・教育・通勤といった主要コストを総合的に考慮すれば、生活全体の満足度は高まりやすいと考えられます。「何にお金と時間を使いたいか」を再設計することこそ、地方移住の最大の意義といえるでしょう。

出典：総務省統計局「家計調査」「住宅・土地統計調査」「国勢調査」「社会生活基本調査」、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」



TOKAI
TOKYO X GUNMA
INAKA





自然と安心のなかで、のびのび育つ

01 やさしいまちで育つ、 子どもと家族の時間



安中市は、四季の自然と人の温かさに包まれた“子育てがしやすいまち”です。近所の人子どもを見守る文化が残り、地域全体で子育てを支えています。
市内には自然の中で遊べる公園や広場、児童館などが充実。休日には妙義山のふもとや碓氷峠鉄道文化むらなどで、家族がのびのび過ごす姿が見られます。
「自然の中で子どもを育てられる安心感がある」と、移住者の声も多く寄せられています。



02 妊娠・出産・子育てを切れ目なく支援

安中市では、妊娠期から出産・子育てまでを切れ目なく支える体制が整っています。『安中市子育てガイドブック』では、妊娠届出から保育園入園、就学までの流れをわかりやすく紹介。主な支援制度は次のとおりです。

【主な妊娠・出産サポート】

- 妊婦健康診査費助成：最大14回分の健診費用を助成
- 産後ケア事業：宿泊・通所・訪問型で、助産師による母子ケアを実施
- こども家庭センター：妊娠期から育児までワンストップで相談可能

【子育て期のサポート】

- 児童手当：中学校卒業まで支給(所得制限あり)
- 子ども医療費助成制度：高校生(18歳到達年度末)まで医療費を全額助成
- ファミリーサポートセンター：子どもの一時預かりや送迎支援
- 子育てひろば・スマイルパーク：親子が自由に集える交流スペース

これらの支援は、市役所や保健センターで案内を受けられるほか、ウェブ版ガイドブックでも制度内容・申請先・問い合わせ先が確認できます。

安中市子育てガイドブック(WEB版) >>>



KOSODATE
SUPPORT

03 保育・教育の充実と 地域に根ざした学校環境

安中市内には、保育園9園、認定こども園8園、地域型保育事業所3園のほか、小学校10校・中学校3校・高校2校・中高一貫校(私立1校)があります(令和6年度時点)。
待機児童はほとんどおらず、共働き世帯でも安心して働ける環境です。学校と地域の距離が近く、PTAや地域イベントを通じて自然な交流が生まれます。
学校では地域の自然を活かした体験学習も盛んで、子どもたちは“人と自然に学ぶ”教育環境の中で成長しています。



04 医療・福祉も 安心のサポート体制

市内には「安中市立碓氷病院」をはじめとする総合病院、小児科・歯科・診療所が多数あり、休日当番医制度も整備。
夜間や休日には「子ども医療でんわ相談」で看護師や医師に相談できます。
妊婦健診・乳児健診・予防接種も市が助成しており、医療と福祉の両面から子育てを支えています。

☎子ども医療でんわ相談
(平日18:00～翌8:00、日・祝日午前8時から終日)

安中市HP「医療と健康」ページ >>>



05 地域とともに育つ、子どもたち

安中市では、児童館や公民館を拠点に、親子で参加できるイベントを多数開催。「親子ヨガ」「絵本の読み聞かせ」「離乳食教室」など、家庭だけでなく地域で育て合う機会が多くあります。
また、七夕まつりや安政遠足といった伝統行事では、地域の人々とふれあいが郷土文化を学べます。

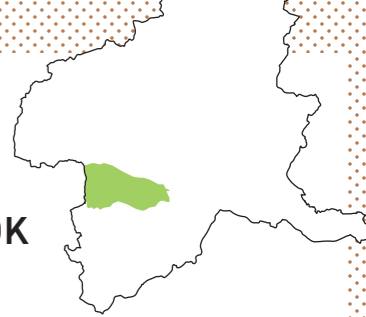
安中市HP「子育て支援」ページ >>>





住まい探しを支える 相談体制と支援制度

(移住検討者向け)



安中市では、空き家バンクによる物件情報の提供に加え、移住前から移住後までを見据えた住まい探しをサポートしています。安中市では、コーディネーター・不動産業者・先輩移住者が連携する体

移住・定住コーディネーターを中心とした相談体制により、住まい選びは、移住後の暮らしや仕事に直結する重要なステップです。制により、移住検討者が安心して一歩を踏み出せる環境を整えています。

移住・定住コーディネーターによる 相談サポート

安中市の移住・定住コーディネーターの特徴は、単なる制度説明や物件紹介にとどまらず、民間の不動産業者や先輩移住者と連携した実践的なサポートを行っている点にあります。

① 物件情報の橋渡し

「畑をやりたい」「古民家に住みたい」「駅に近い場所がいい」など、希望するライフスタイルや働き方に合わせて、空き家バンク物件と民間不動産物件の情報を整理し、提案してもらえます。条件が定まっていない場合でも、希望の優先順位を整理しながら、住まい探しの方向性を一緒に考えることができます。

② オンライン相談の活用

Zoomを活用したオンライン相談(1枠約40分・要予約)が可能です。遠方に住みながらでも、現地の物件状況や周辺環境、地域の雰囲気について相談できるため、現地訪問前の情報収集や検討の精度向上につながります。

③ 多角的なアドバイス

コーディネーター自身や、連携している先輩移住者の視点から、気候の特徴、近隣との付き合い方、暮らしの実情など、物件資料だけでは分からないリアルな情報を得ることができます。住まい選びを「建物の条件」だけでなく、「暮らしの継続性」まで含めて判断できる点が大きなメリットです。



物件取得・改修に活用できる 支援制度

物件が決まった後の初期費用や改修費用の負担軽減についても、コーディネーターから各種制度の案内を受けることができます。※各制度には要件があります。詳細は事前に相談窓口で確認してください。

① 空き家利活用補助金

空き家バンク物件の購入・賃借に伴う、リフォーム工事費や不要物(家財)撤去費用の一部を補助します(上限額あり)。住まいの改修だけでなく、空き家を活用する際の初期負担を軽減するための制度です。

② 若者・子育て世代定住促進住宅取得応援金

40歳未満の若者世帯や子育て世帯が、市内で住宅(新築・中古)を取得した場合に、奨励金を交付します。住まいの取得を後押しする制度として活用できます。

③ 移住支援金

東京圏から安中市へ移住し、対象となる就業または起業を行った場合に、世帯・単身の区分に応じて支給されます。住まいと同時に、仕事・起業を検討する際の支援として位置づけられます。

住まい探しを「一人で抱え込まない」ために

住まい探しは、情報収集・内覧・契約・改修と段階が多く、不安や負担が大きくなりがちです。安中市では、移住・定住コーディネーターを中心に、専門家や地域の先輩移住者とも連携しながら、移住検討者が安心して準備を進められる体制を整えています。

空き家バンクの活用と専門家連携

安中市では、市独自の空き家バンクを運営しており、移住・定住コーディネーターがその活用をサポートします。

① 専門業者との連携

空き家バンク物件の売買・賃貸の仲介には、市が指定する空き家バンク登録事業者(地元の宅地建物取引業者)が関わります。コーディネーターが間に入ることで、不動産業者への相談や連絡がスムーズに進み、内覧や契約までの手続きが円滑になります。

② 現地案内・内覧の調整

気になる物件がある場合には、コーディネーターを通じて内覧の調整や、市内の案内を依頼できるケースもあります。住まいだけでなく、周辺環境や生活動線(買い物・通勤・学校・医療等)も含めて検討できるため、移住後の生活イメージが具体化します。

空き家リノベーションを成功させる安中市の強み

① 「人」を起点としたつながり

安中市では、移住・定住コーディネーターが中心となり、空き家・人・専門家をつなぐ役割を担っています。「どの工務店が古民家改修に強いか」「どの地域がDIYや改修に理解があるか」といった、インターネットだけでは得にくい口コミに近いリアルな情報をつないでもらえる点が大きな強みです。

② 補助金を活用した初期費用の軽減

空き家バンク登録物件を活用する場合、補助制度を組み合わせることで、初期投資を抑えたリノベーションが可能になります。
●空き家バンク登録物件リフォーム補助…工事費用の2分の1(上限20万円)
※40歳未満の若者世帯は上限40万円まで加算
●家財処分費補助…家財処分費用の2分の1(上限10万円)
住まいとしての改修だけでなく、宿泊施設や店舗などの事業活用を検討する場合にも、資金計画の一部として活用できます。

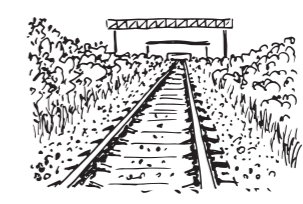




安中市の働きやすさ

— 就職にも、起業にも、続けやすい環境がある —

安中市の働きやすさは、「どの働き方を選ぶか」より、どの働き方でも無理なく続けられることにあります。人。それぞれの立場に共通する環境として、安中市の働きやすさを整理します。

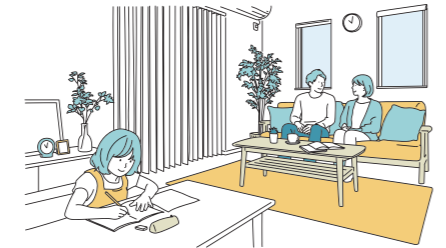


就職 暮らしと両立しながら、長く働ける



安中市で就職する大きな特徴は、仕事と暮らしの距離が近いことです。総務省「社会生活基本調査」によると、首都圏（東京圏）では通勤時間は片道平均45～55分とされ、千葉・埼玉・神奈川などから都心へ向かう場合には、片道1時間を超えるケースも珍しくありません。一方、地方都市では平均20～30分程度、群馬県においても平均25～30分程度とされています。群馬県では自家用車通勤が主流で、乗り換えや待ち時間が少なく、ドア・ツー・ドアで移動できる点も特徴です。首都圏では往復で2時間以上を通勤に費やすことが多いのに対し、安中市周辺では往復1時間弱に収まるケースが多く、毎日1時間前後の可処分時間が生まれます。この時間を家族との時間や趣味、休養、自己研鑽に充てられることは、働き続けるうえで大きな支えとなります。

また、安中市周辺は北関東工業地域の一翼を担い、製造業を中心とした地域産業が集積しています。総務省「国勢調査」や経済産業省「経済センサス」によると、群馬県は製造業の就業者割合が比較的高く、輸送用機器や化学工業などをはじめとした分野で、独自の技術を持つ中小企業が多く立地しています。こうした企業では、技術の継承や人材育成を重視する文化が根付いており、短期的な雇用ではなく、腰を据えて長く働くことを前提とした職場が多いことも特徴です。さらに、住居費や生活費を抑えやすい点も、就職者にとっての働きやすさにつながります。総務省「住宅・土地統計調査」によると、東京都の民間借家の平均家賃が月8～9万円程度であるのに対し、群馬県では4～5万円程度と、およそ半分の水準となっています。生活コストを抑えられることで、無理な残業や頻繁な転職を前提としない、安定した働き方を選びやすい環境があります。



起業 低コストだからこそ、挑戦を続けられる



安中市は、起業に挑戦する人にとって「続けやすい環境」が整っています。中小企業庁「中小企業白書」によると、日本の開業率・廃業率はいずれも4～5%前後で推移しており、起業初期における主なリスクとして、「売上の不安定さ」と「固定費の重さ」が挙げられています。特に、家賃や人件費などの固定費は、事業継続に大きな影響を与える要素です。安中市のような地方では、オフィス賃料や住居費、生活費を抑えやすく、事業が軌道に乗るまでの期間を生活面で支えやすい環境があります。固定費を低く抑えられることは、失敗した場合の影響を小さくし、「まずはやってみる」という挑戦を現実的なものにします。これは、起業のハードルを下げるだけでなく、試行錯誤を重ねながら事業を育てていくことを可能にします。また、地域には製造業をはじめとした中小企業が

多く、地元企業との取引や連携、地域ニーズに根ざしたビジネスを展開しやすい土壌があります。都市部に比べて競合が少ない分野も多く、地域課題を解決するニッチなビジネスが成立しやすい点も特徴です。地域との距離が近いため、顧客の声を直接事業に反映しやすい点も、地方で起業する強みといえます。通勤や移動にかかる時間が少ないことも、起業家にとって重要な要素です。移動に奪われる時間が少ないことで、事業と生活を切り離さずに回しやすく、時間や体力を事業そのものに集中させることができます。小さく始め、状況に応じて調整しながら続けられることが、安中市で起業する際の大きな働きやすさです。



二拠点 新幹線駅があるから、行き来しながら働ける

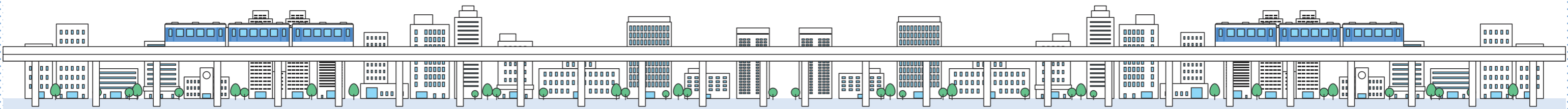
安中市の働きやすさは、「完全な移住」だけを前提としたものではありません。市内には新幹線の駅があり、都心部へのアクセス性に優れていることから、都市と地方を行き来しながら働く二拠点の働き方が現実的に成立する地域です。総務省「通信利用動向調査」によると、テレワークの実施率は全国平均で約25～30%、都心部では約50%に達しており、働く場所を柔軟に選ぶことが一般的になりつつあります。高速通信網の整備や、「仕事＝オフィス」から「仕事＝成果」へという価値観の変化も、こうした働き方を後押ししています。安中市は、新幹線を利用することで都心まで約1時間圏内に位置しており、週1～2日の出社であれば無理なく対応できる距離にあります。就職の場合、都市部に本社や勤務先を持ちながら



生活の拠点を安中市に置くことで、都市部の給与水準を維持しつつ、地方の低コストでゆとりある生活を送ることが可能となります。起業の場合も、市場や顧客は都市部に持ちながら、安中市を事業拠点・生活拠点とすることで、固定費や生活コストを抑えた事業運営がしやすくなります。新幹線駅があることで、商談や打合せ、展示会などへのアクセス性が高く、地方にいながら都市部との関係を維持しやすい点も大きな強みです。二拠点の働き方は、特別な人のための選択肢ではなく、キャリアと生活を両立させるための現実的で合理的な戦略として、安中市では自然に選ばれつつあります。



WORKABILITY IN ANNAKA



地域の商工会の役割

— 地域経済を支え、挑戦を受け止める拠点 —

商工会は、地域の小規模事業者を支える「経営支援」と、地域全体の活力を日々の経営相談から地域づくりまで幅広く支えながら、近年では移住者や地域外人材移住や起業、二拠点生活といった選択は、制度や情報
商工会は、そうした「考え始めたばかりの段階」から相談

高める「地域振興」を一体的に担う、日本で唯一の地域総合経済団体です。
にとっても、仕事や事業について「最初に立ち寄れる相談先」としての役割を強めています。
が複雑で、一人で考えるにはハードルが高いものです。
を受け止め、地域の実情に即した形で道筋を整理します。



1 経営改善普及事業 — 個々の事業者を守り、育てる伴走型支援 —

経営改善普及事業は、小規模事業者の経営や技術力の向上を目的とした、商工会の中核的な活動です。経済産業大臣が定める資格を有する経営指導員が、事業者一人ひとりの状況を丁寧に把握し、継続的な「伴走型支援」を行っています。この支援は、すでに事業を営んでいる方だけでなく、移住をきっかけに起業を検討している方や、将来的な独立を考えている方にとっても、有効な支援となります。

金融・資金繰りの相談

事業を始める際、多くの方が不安を感じるのが資金面です。
商工会では、日本政策金融公庫や自治体制度融資の斡旋、無担保・無保証で利用できる「マル経融資」など、小規模事業者向けの資金調達制度について相談を受け付けています。
単に融資制度を紹介するだけでなく、事業内容や規模に応じた資金計画を整理し、無理のないスタートを切るための支援を行います。

経理・税務・労務に関するサポート

起業後に直面しやすいのが、経理や税務、労務といった実務面の課題です。
商工会では、記帳指導や決算・申告の相談をはじめ、インボイス制度や電子帳簿保存法など、制度改正への対応についても個別に支援しています。
また、雇用に関する基礎的な労務管理の相談にも応じ、「事業に集中できる環境づくり」を支援しています。

創業・経営計画の作成支援

創業を検討する段階では、「やりたいことはあるが、事業として成り立つのか分からない」という不安を抱く方が少なくありません。
商工会では、事業内容やターゲット、収支の見

通しを整理する創業経営計画の作成支援を行っています。
アイデア段階から相談が可能で、計画づくりを通じて、事業の方向性や実現性を高めていきます。
この計画は、融資や補助金申請の基礎資料となるだけでなく、自分自身の事業を客観的に見つめ直す機会にもなります。

補助金活用による経営力向上支援

商工会では、小規模事業者持続化補助金をはじめとする各種補助金について、制度説明から申請書作成、事業実行までを一体的に支援しています。
補助金を「資金を得るための手段」としてだけでなく、事業の強みや将来像を整理し、次の一歩につなげるためのツールとして活用することを重視しています。

補助金活用事例

松井田地域の事業者である「木の花園」では、小規模事業者持続化補助金を活用し、作業場の一部を来訪者向けのワークショップ対応スペースへ改修しました。
これにより、製造工程の見学や体験型イベントの開催が可能となり、商品販売に加えて、体験を通じたファンづくりや情報発信の強化につながっています。

商工会では、
●事業内容の整理
●補助金申請書の作成
●事業実施に向けた計画づくり
までを一貫して伴走支援しました。

販路開拓につながった発展事例

第3章で紹介した移住者であり、松井田地域で事業を営む(株)木の花園の澤田さんは、商工会の伴走支援を受けながら、事業の次のステージとして全国規模の販路開拓に挑戦しました。
商工会では、「誰に、何を、どのように届けるのか」という視点から、商品コンセプトや強みの整理、ターゲット市場の明確化を支援しました。
その結果、全国の百貨店・専門店・卸売業者など、有力バイヤーが集まる国内最大規模の展示会への出展が実現しました。
展示会出展にあたっては、商品説明資料やバイヤー対応の準備などについても、事前に相談会を行い、実践的な販路開拓を後押ししました。
この出展を通じて、地域内で育まれてきた商品や想いが、地域外・全国市場へとつながるきっかけが生まれ、移住者による事業が「地域に根ざしながら、外へひらく」好事例となっています。

2 地域総合振興事業 — 地域全体の「稼ぐ力」と魅力を高める —

商工会は、個々の事業者支援にとどまらず、行政や地域団体と連携しながら、地域全体の活性化に取り組んでいます。事業を営む環境そのものを良くすることも、商工会の重要な役割です。

賑わい創出・観光振興

商店街イベントやプレミアム付き商品券事業、スタンプラリーなどを通じて、地域内消費や交流の促進を図っています。
また、空き店舗を活用した交流拠点づくりなど、人が集まり、関係が生まれる「場」を地域の中につくる取組も進めています。

地域ブランド・特産品の育成

地域資源を活かした新商品開発や6次産業化の支援、地場産品のブランド化を通じて、地域の魅力を「仕事」や「収益」につなげる取組を行っています。

創業・移住を見据えた連携支援

自治体や金融機関、不動産関係者と連携し、空き家・空き店舗の活用や創業に関する相談を受け付けています。
移住、仕事、事業を切り離さず、段階的に地域と関わりながら将来を描ける体制づくりを進めています。

商工会は「考え始めた人」を受け止める場所

商工会の最大の特徴は、「まだ何も決まっていな

い段階」から相談できることです。
●移住後、どのような働き方が考えられるか
●いずれ起業したいが、今は情報収集の段階
●補助金や制度をどう活用できるのか分からない
こうした相談に対し、商工会は地域の実情を踏まえて整理し、必要に応じて関係機関とつなぎながら、次の一歩を一緒に考えます。
地域で働く、挑戦する、暮らし続ける。
その入口として、商工会は移住者にとっての身近で現実的な相談拠点です。

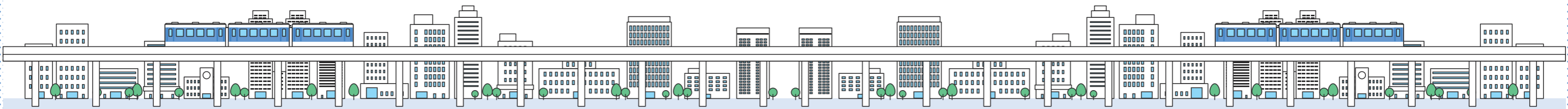
商工会の活動を支える2つの柱

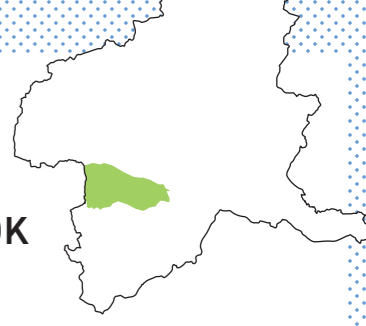
事業者の経営改善

中小・小規模事業者の「支援機関」として、経営や技術の改善発達のために、経済産業大臣の定める資格をもつ経営指導員などが、金融・税務・経営・労務などの相談や指導をします。

地域社会の発展

地域の「総合経済団体」として、経済活動を通じた元気な地域づくりと商工業振興のため、まちづくり、社会一般の福祉の増進など、さまざまな事業に取り組んでいます。





安中市で働く企業紹介

— 安中で、一生モノの仕事に会う —



安中の伝統と産業を支える



安中の自然と命を育む

1 株式会社 荻野屋

日本最古の駅弁
「峠の釜めし」に込める、
変わらぬ真心。



事業内容
1885年創業。横川駅名物「峠の釜めし」の製造・販売を軸に、サービスエリア運営や飲食事業を展開。信越本線の歴史とともに歩み続けてきた、安中を代表する老舗企業です。

事業の魅力
「温かいものは温かく」。創業者の想いを今も大切に守り続ける姿勢が、世代を超えて愛されるブランド力を支えています。荻野屋の仕事は、単なる飲食業ではなく、地域の歴史と文化を未来へつなぐ役割そのものです。

やりがい
全国から訪れるお客様の「おいしい」という一言に、直接触れられる仕事。安中・横川の象徴として、観光の最前線を支える誇りと充実感があります。



2 碓氷製糸 株式会社

世界遺産の麓で、
日本の絹文化を次世代へつなぐ。

事業内容
日本最大級の製糸工場として、群馬県産を中心とした国産繭を原料に、高品質な生糸(シルク)を生産しています。地域の農業を守ることを目的に農業協同組合として発足し、現在は日本の伝統的な絹産産業を未来へつなぐ役割を担っています。

事業の魅力
地域の養蚕農家と連携しながら、長年培われてきた製糸の技術と品質を守り続けてきました。近年では、絹の可能性を広げるため、医療・化粧品分野など新たな用途への活用にも取り組み、伝統産産業を時代に合わせて進化させています。

やりがい
安中の豊かな水と自然に支えられた環境の中で、日本の絹文化を「守り、つなぐ」仕事に携われることが大きなやりがいです。地域農業と産業の両方を支える一員として、自分の仕事が次の世代へ受け継がれていく実感を持ちながら働くことができます。

3 タカハシファーム

「命の循環」を大切にする、
地域密着型の畜産経営。



事業内容
安中の自然環境を活かした酪農・畜産業。健康な牛を育て、安心・安全な乳製品や食肉の供給を支えています。

事業の魅力
最新の飼育管理技術を取り入れつつ、一頭一頭と向き合う丁寧な仕事を重視。地域農家と連携した資源循環など、持続可能な農業に取り組んでいます。

やりがい
動物の成長を間近で感じる日々には、言葉にできない感動があります。安中の大地を舞台に、食の根幹を支える実感をダイレクトに得られる仕事です。



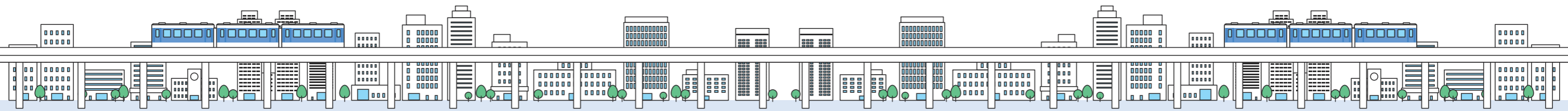
4 ポニーパークカドル

馬とのふれあいを通じて、
心豊かな社会を創造する。

事業内容
ポニー・馬とのふれあい体験、乗馬レッスン、ホースセラピーを提供。子どもから大人まで、幅広い世代に関わられた施設です。

事業の魅力
レジャー施設にとどまらず、馬と人が「パートナー」として共生する場。情操教育やリハビリなど、社会的意義の高い取り組みを行っています。

やりがい
馬たちの穏やかさに癒やされながら、人の心がほぐれていく瞬間に立ち会える仕事。安中のゆったりとした時間の中で、動物と共に成長できる温かな職場です。



あんなか創業支援ネットワーク

— はじめの一步から、続けるところまで —



創業を考え始めたとき、多くの人が不安に感じるのは「何から始めればよいのか分からない」「相談先が多くて迷ってしまう」という点です。あんなか創業支援ネットワークは、こうした創業期特有の悩みに対し、行政・金融機関・商工会・専門家などが連携し、ワンストップで支援を行う体制です。起業家が一人で悩むのではなく、地域全体で創業を支える仕組みが整っています。



1 ネットワークの仕組み

このネットワークは、国の「産業競争力強化法」に基づき、市町村が中心となって構築されている「特定創業支援等事業」を軸に運営されています。支援内容は、次の4つの分野をバランスよくカバーしています。

- 経営: 事業アイデアの整理、ビジネスモデル構築
- 財務: 資金計画、創業融資、補助金活用
- 人材育成: 労務管理、雇用の考え方
- 販路開拓: 集客方法、地域内外への売り出し方

これらを一定期間、継続して支援することが特徴です。

2 商工会が果たす役割

商工会は、ネットワークの中で创业者に最も近い相談窓口として機能しています。

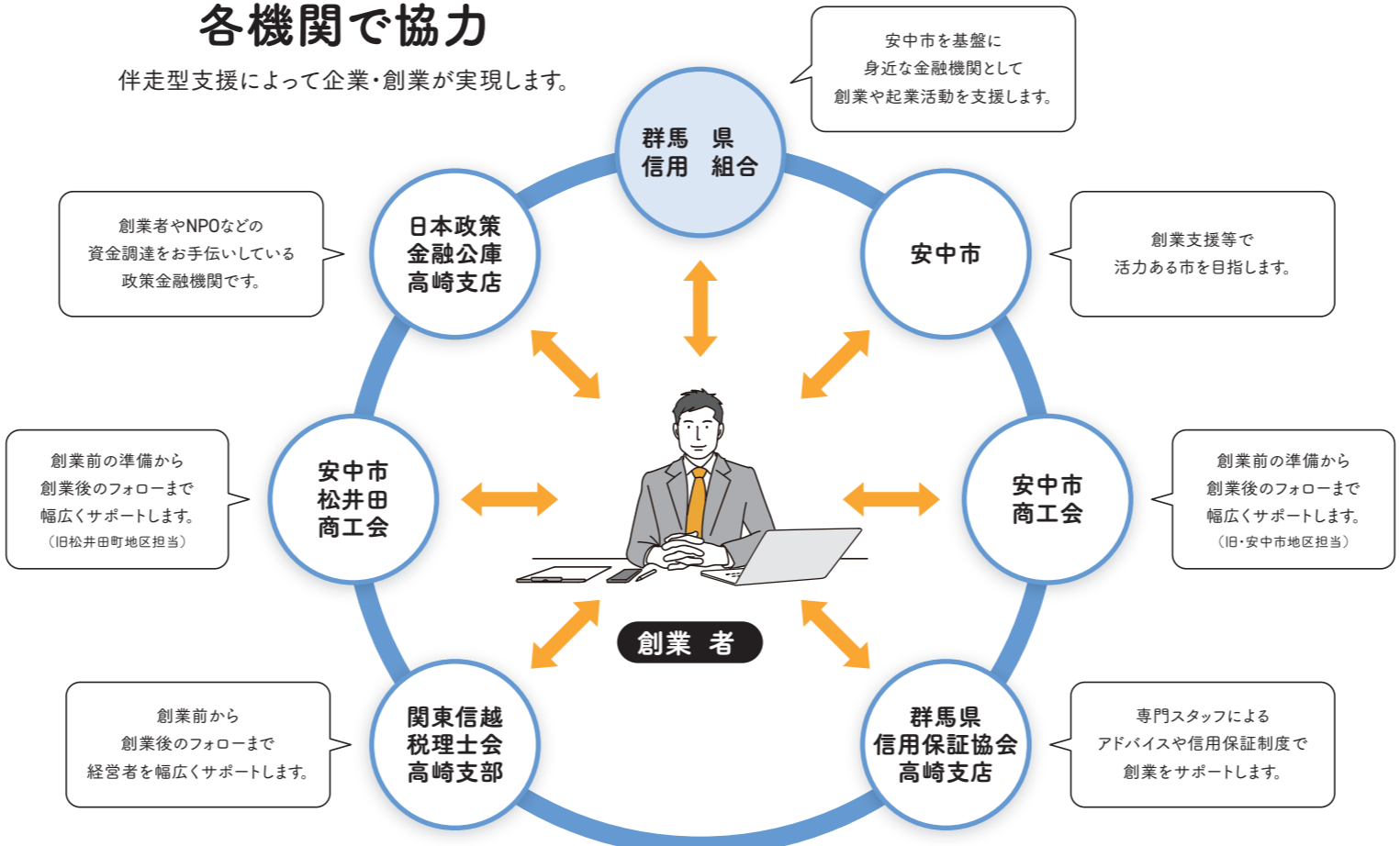
- 事業計画書の作成支援
- 開業後を見据えた資金繰り・記帳指導
- 金融機関や専門家との橋渡し
- 創業後も継続する伴走型の経営支援

「創業したら終わり」ではなく、地域で事業を続けていくための支援を行う点が大きな特徴です。



各機関で協力

伴走型支援によって企業・創業が実現します。



3 特定創業支援等事業を受けるメリット

一定の要件を満たすと、市から証明書が発行され、次のような優遇措置を受けられます。

- 法人設立時の登録免許税が半額
- 創業融資の利用がしやすくなる
- 日本政策金融公庫の金利優遇
- 補助金(持続化補助金など)の上限引き上げ・加算

特に重要なのは、これらの多くが「法人設立前」だからこそ受けられる支援である点です。

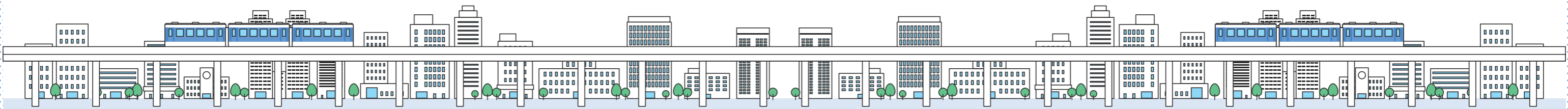
4 利用の流れ(シンプル4ステップ)

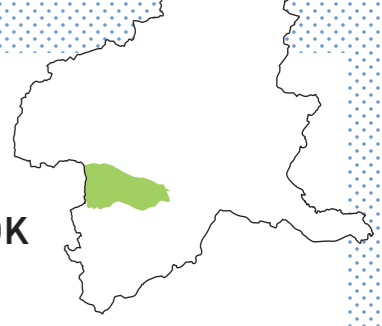
- 1 | 商工会や市の創業相談窓口へ相談
- 2 | 創業塾・個別相談などの継続支援を受講
- 3 | 特定創業支援等事業の証明書を取得
- 4 | 融資・登記・補助金申請へ活用

5 安中で創業するという選択

あんなか創業支援ネットワークの強みは、制度だけでなく人と人のつながりがあることです。地域の状況をよく知る支援者が寄り添い、「このまちで事業を続ける」ことを前提に支援します。創業はゴールではなく、スタート。その一歩を、安心して踏み出せる環境が安中にはあります。

SUPPORT NETWORK





安中市 × 地域 おこし協力隊

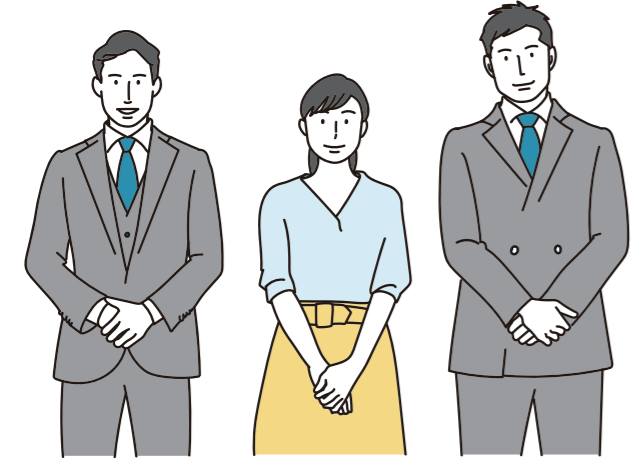
— 3年間の挑戦を、その後の「仕事」と「暮らし」につなげる制度 —

地方移住を考える際、多くの人不安を感じるの
総務省が推進する地域おこし協力隊は、そうした不安を軽減し
安中市ではこの制度を、一時的な就業機会ではなく、「その後の自立・定着につ
ながら、地域に根づくための”準備期間”を提供する制度です。
なげる仕組み」として位置づけ、独自の支援策と組み合わせて運用しています。



1 地域おこし協力隊とは — 制度の考え方

地域おこし協力隊は、都市部から地方へ住民票を移し、1年～3年間、地域課題の解決や産業・観光振興などに取り組む制度です。
総務省の制度趣旨では、
●地域力の維持・強化
●協力隊員の地域定着
の両立が重視されています。
安中市ではこの考え方を踏まえ、「活動期間中に地域と関係を築き、任期後は仕事として定着する」ことを明確なゴールとして支援体制を構築しています。



2 安中市が描く、 2つのキャリアパス



安中市の地域おこし協力隊は、任期終了後の進路を見据え、主に次の3つの方向性を想定しています。
●就職・事業承継型
…地域企業や伝統産業で働き、担い手として定着する
●起業型(創業)
…地域資源や空き家を活かし、自ら事業を立ち上げる
安中市独自の支援策
任期終了後、市内で起業または事業承継を行う場合、最大100万円の補助金を活用することができます。活動の「次の一歩」を具体的に後押しする点が、安中市の大きな特長です。

3 就業につながる事例 — 伝統産業の担い手として定着し、 地域の価値を伝える

安中市では、地域おこし協力隊の制度を活用しながら、伝統産業の担い手として地域に定着することを明確な目的とした関わり方が生まれています。
真野さんは、安中市に受け継がれてきた養蚕・絹産業を将来につなぐ担い手になることを強い目的意識として、現在、碓氷製糸で研修期間として働き、製糸の現場に携わりながら地域に定着しています。
製糸の工程や現場の実情を日々の仕事として学ぶ一方で、地域おこし協力隊としての立場を活かし、絹産業の歴史や価値、安中市のものづくりの魅力を地域内外に発信するPR活動にも取り組んでいます。
「伝統産業の現場で働く当事者」だからこそ伝えられる視点を持ち、産業と地域の価値を結び付けて発信している点が特長です。
このように、まず地域産業の担い手として現場に根を下ろし、そのうえで地域おこし協力隊として地域の価値を伝えていく関わり方は、産業承継と人材定着を同時に進める新たなモデルとなっています。

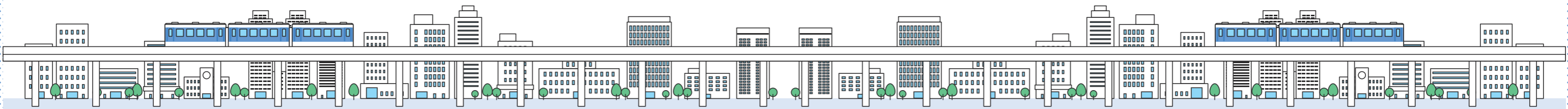


4 起業につながった事例 — 梅がつなぐ、人と地域のしごと

安中市では、地域おこし協力隊としての任期中の活動を通じて起業に踏み出した事例も生まれています。
事例:秋間梅林から生まれた「結び葉」の挑戦
地域おこし協力隊として活動した薫さんは、安中市を代表する地域資源である秋間梅林に着目。
任期中、梅農家や地域住民との関係づくりを重ねる中で、梅を通じて人と人、人と地域を結ぶ取り組みの可能性を見出しました。
その過程で、協力隊としての活動と並行しながら、梅を活かした商品づくりや発信を行う事業「結び葉合同会社」を起業。
拠点づくりを目的とするのではなく、地域資源に関わる人々の想いや背景を大切にしながら、仕事として成立させる形を模索しています。
この事例は、地域おこし協力隊が任期中から挑戦を始め、地域と関わり続けながら事業を育てていくことができる制度であることを示しています。

[問い合わせ・相談窓口]
地域おこし協力隊の募集内容や、活動後の就職・起業に関する相談は、以下で受け付けています。
安中市役所(地域振興・移住定住担当課)

CHIKI-OKOSHI KYORYOKU-TAI





安心して暮らせる 安中市のサポート

あんしんのまんなか!

安中市移住
GUIDE BOOK



移住・住宅

安中市 企画政策部 地域づくり課
TEL.027-382-1111

- 移住相談申込フォーム
<https://logoform.jp/form/jiE8/981644>
- 安中市移住支援金制度
・単身者:60万円・2人以上の世帯:100万円
・子ども加算:100万円/人(上限3人)
対象:東京圏からの移住1年以内の方
(就業条件など有)
- 安中市地方就職支援金制度
交通費:上限 6,000円(就職活動に応じた額)
移転費:上限66,000円
対象:東京圏の大学等卒業1年以内の方、
卒業見込みの学生
- 安中市マイホーム取得支援金
基本額……………100,000円
転入加算……………50,000円
子ども加算……………50,000円
空き家バンク加算………30,000円
新幹線通勤加算………200,000円
移住誘導区域加算………100,000円
対象:市内に住宅をはじめて取得して、
令和5年7月以降に定住を開始した方
- 安中市結婚新生活支援補助金
住宅取得、リフォーム、賃貸、引越しに補助、
上限30万円(夫婦ともに29歳以下は60万円)
対象:夫婦ともに39歳以下、
かつ夫婦の合計所得500万円未満

群馬県住宅供給公社 安中支所
TEL.027-381-8515

- 市営、県営住宅の紹介
対象:収入制限有



安中市 まちづくり部 都市計画課
TEL.027-382-1111

- 宅地分譲
対象:自ら居住する住宅を建築し生活の本拠とする方

安中市 まちづくり部 建築住宅課
TEL.027-382-1111

- 空き家バンク
専用サイト【あんなか日和】
(www.city.annaka.lg.jp/annakabiyori)を
ご覧ください。
- 空き家バンク登録物件リフォーム等補助事業
対象:空き家バンクに登録した物件を売買又は
賃貸し、リフォーム又は家財処分を行う方
家財処分補助:(空家等バンクへ登録時)
家財の処分に係る費用が5万円以上であ
る場合に処分費用の2分の1(上限10万円)
リフォーム補助:(空家等バンクで契約時)
リフォーム工事費費用の2分の1(上限20万円)
※若者加算(購入者又はその配偶者が40歳未満
の場合、上限40万円)
- 木造住宅耐震診断事業
木造住宅耐震診断
(費用無料、診断者の交通費1,000円)
対象:昭和56年5月以前に着工した住宅
※診断する建物図面がない場合は図面作製費用として
別途費用がかかる場合があります。
- 木造住宅耐震改修補助事業
耐震補強工事及び工事監理にかかる費用の5分
の4以内を補助(限度115万円)
対象:昭和56年5月以前に着工し、上部構造
評点が1.0未満と診断された住宅
- 安中市危険ブロック塀等撤去費補助金
道路沿い設置の危険ブロック塀等の
撤去工事費の2分の1以内を補助
(限度額は次の①または②のうち低い額
①5万円②危険ブロック塀等の撤去する長さの
合計に1mあたり1万円を乗じた額)
対象:危険ブロック塀等の所有者または相続人

- 住宅省エネ改修補助事業
市内に本店がある施工業者に発注する
該当工事の補助(現金で受け取る場合10万円、
「UMECA」で受け取る場合11万円分のポイント)
対象:市内の住宅に居住している18歳以上の方

安中市 まちづくり部 都市整備課
TEL.027-382-1111

- 生け垣の設置補助金
施工費および樹木購入費(事業総額4万円以
上)の4分の1以内を補助(上限5万円)
対象:住宅地または住宅を建てる土地への設置

安中市 市民環境部 環境政策課
TEL.027-382-1111

- 住宅用再生可能エネルギーシステム
設置補助金
対象機器の設置や備え付け住宅の購入補助
・太陽光発電システム(上限5万円)
・定置用リチウムイオン蓄電システム(上限6万円)
・太陽熱利用温水器(上限1万5千円)
・木質ペレットストーブ(上限5万円)
※居住誘導区で設置や備え付け住宅を購入した場合、
居住誘導区域加算(交付金と同額を加算)あり。
木質ペレットストーブは加算対象外。

就業・就農・創業

ジョブカフェぐんま 高崎センター
TEL.027-330-4510

- 移住希望者向け 群馬県マッチングサイト
https://jobcafe.cloudbiz.jp/hp/jobsupport_search.php

ハローワーク安中
TEL.027-382-8609

安中市 みりょく創出部 農林課
TEL.027-382-1111

- 新規就農者育成総合対策(経営開始資金)
就農直後の経営確立に資する経営開始資金
対象:次世代を担う農業者となることを志す人
- 新規就農者育成総合対策(経営発展支援事業)
県が機械・施設等の導入を支援する場合、
県支援分の2倍を国が支援(本人負担有)
対象:就農後の経営発展に資する取組を行う方

安中市 みりょく創出部 商工課
TEL.027-382-1111

- 創業の相談(安中市、または商工会へ)
安中市松井田商工会(旧:松井田町地区)
TEL.027-393-1411
安中市商工会(旧:安中市地区)
TEL.027-382-2828
- 商工会の支援
経営全般、税務、労務、金融、専門家派遣、
補助金案内など様々な支援
対象:商工業者、創業予定者
- 安中市創業者融資利子補給金および創業奨励金
利子補給:対象融資に係る支払利子額とし、
2年間で上限15万円
創業奨励金:信用保証料に相当する額とし、
2年間で上限10万円
対象:市内で新たに創業をする人または創業後1年未満の人
- 創業者サポート補助金
創業費用の2分の1以内を補助
(上限50万円、1年以内の転入者は70万円)
対象:創業後6か月以内または今年度中に創業
- (県)ぐんまクロススタート補助金
起業に要する対象経費の2分の1を補助(上限200万円)
対象:新たに企業する方、事業承継する方
- (国)小規模事業者持続化補助金
(一般型、創業型)
取組費用の3分の2を補助
(上限:一般型50万円、創業型200万円)
対象:販路開拓の取組を行う小規模事業者

妊娠・子育て

安中市 保健福祉部 健康づくり課
TEL.027-382-1111

- 妊娠、子育て全般の相談
- 医療相談アプリ
スマートフォンで医師に相談ができるアプリ
対象:妊婦、小学1年生以下のご家庭
- 妊婦のための支援給付
1回目:妊婦1人につき5万円
2回目:胎児1人につき5万円
対象:令和8年4月1日以降に安中市に妊娠届出書
または妊婦給付認定用診断書を提出した妊婦
- 安中市マタニティサポート給付金
電子地域通貨によるポイント給付
児童1人につき5万ポイント(第3子以降は8万ポイント)
対象:令和8年4月1日以降に安中市に妊娠届出
書を提出した妊婦
- 不妊治療費助成事業
医師が認めた医療に助成
上限10万円(1年度に1回)
対象:不妊治療をしている夫婦
- 不育症治療費助成事業
医師が認めた不育症治療に助成
上限20万円(1年度に1回)
対象:不育症治療をしている夫婦
- 産後ケア事業
出産後の産婦の心身ケアや授乳指導等、
育児不安を軽減するための支援
対象:安中市に住所を有する
産後1年未満の産婦とお子さん

安中市 市民環境部 市民課
TEL.027-382-1111

- 出産祝品
市内にある確氷製糸株式会社で製品化した
「絹のおくるみ」を贈呈
対象:市内に住所を設定した出生子

安中市 市民環境部 国保年金課
TEL.027-382-1111

- 子ども医療費助成制度(福祉医療制度)
保険診療による自己負担分を助成
対象:18歳の年度末までの子ども

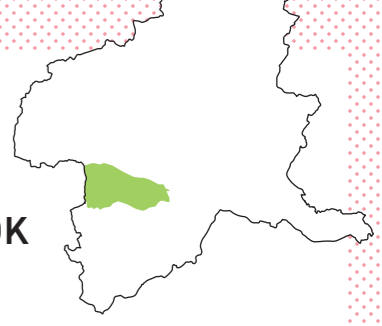
安中市 保健福祉部 こども課
TEL.027-382-1111

- 保育料の無償化・減額
無償化対象:第3子目以降の子ども
(第1子カウントは小学校就学前まで)
- 副食費(おかず・おやつ代)が、
市の定める範囲内で無償化
(令和7年度は上限4,900円)
対象:3歳児クラス以上のすべての子ども

安中市教育委員会
TEL.027-382-1111

- 遠距離児童生徒通学費補助事業
小学生…通学距離が4kmを超える区間
年額15,400円
中学生…通学距離が6kmを超える区間
年額15,400円
対象:遠距離を通学する児童生徒
(スクールバス利用対象地域を除く)
- 奨学金貸与事業
公立、私立高校 月額15,000円
対象:本市の高等学校等に在学又は予定の人
- 学校給食費一部無償化
18歳の年度末までの子を第1子とした第3番目
以降の安中市立小学生の学校給食費を無償化
対象:安中市立中学生





やることアクションプラン

— 検討から実行まで、迷わない5つのステップ —

移住は、大きな決断に見えて、実は「一つずつ確かめていく」ことで現実になります。安中市では、情報収集から制度申請まで段階的に進められる体制が整っています。

STEP 1 情報収集

まずは、移住者のリアルな声に触れてみましょう。安中市移住・定住応援ナビ「あんなか日和」では、先輩移住者の体験談や暮らしの様子、イベント情報を紹介しています。数字や制度だけでは分からない「生活の空気感」を知ることで、移住後のイメージが具体化します。

STEP 3 現地視察

実際に足を運ぶことで、暮らしの輪郭がはっきりします。安中榛名駅(駅前無料駐車場の使い勝手)、磯部温泉街、あんなかスマイルパークなどを巡り、通勤・子育て・休日の過ごし方を、自分の生活に重ねて体感してみてください。

STEP 2 現地相談・壁打ち

気になること、不安なことは、早い段階で言葉にするのがおすすめです。移住・定住コーディネーターへの相談では、「仕事はどうする?」「車は必要?」「地域になじめる?」など、どんな内容でも相談できます。整理しきれていない段階でも構いません。一緒に考えるところから始められます。

STEP 4 事業・生活設計

移住の形は人それぞれです。創業を考えている方は商工会へ、住宅取得や空き家活用を考えている方は建築住宅課へ。仕事・住まい・支援制度を切り離さず、「どの制度を、どの順番で使うか」を一緒にシミュレーションすることで、無理のない計画が描けます。

STEP 5 申請・手続き

補助金や支援制度には、「転居前」「着工前」などの要件があるものが少なくありません。思い立ってから動くのではなく、担当課と事前に相談し、スケジュールを確定させることが成功のポイントです。申請までの流れも、各窓口が丁寧にサポートします。

